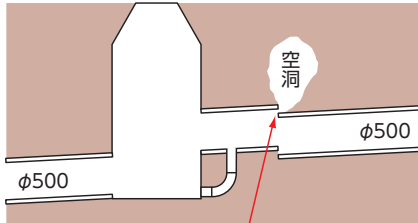


部分補修（熱硬化）

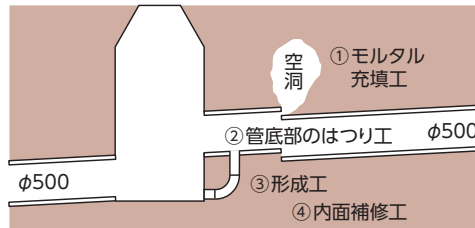
9 部分補修（熱硬化）… φ500 本管段差補修の特殊実例

状況

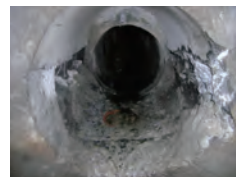
地盤の変化により、12cmの段差ができた。段差のついた管きよ上部に、土砂の流出による空洞が確認された。



施工方法



①空洞に粘土モルタルを充填



②管きよ底部をはつり、管底部を既設管と合わせる副管を無収縮モルタルにて埋め殺し



③管きよ型の型枠をはめ込み、無収縮モルタルにて管形成



内面補修施工中



④内面補修を行い、仕上げる

10 部分一体型補修（熱硬化）… 裏込め注入の前処理（製管工法）

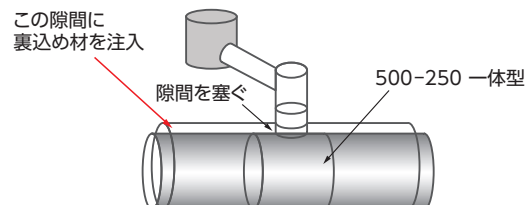
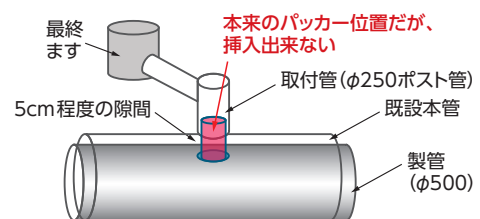
状況

製管施工後の裏込め注入時には、通常、本管の取り付け管口にパッカーを設置して行なうが、ますからパッカーが挿入出来ない箇所があった。

既設本管と製管の間に5cm程度の間隙がある。本来なら、最終ますよりパッカーを挿入するが、ポスト管のため、不可能であった。

対策施工例

既設管と製管の間隙を塞ぐのは、本来ならパッカーだが、挿入出来ないので、一体型補修を前処理として施工し、裏込め注入を行なった。



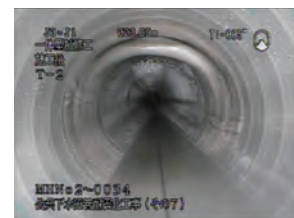
<施工写真>



取付管口部分



500-250 施工中



500-250 熱硬化一体型施工後